



## 筑波大学附属駒場中 2021 年度入試 ～今年の出題傾向分析～

### 〔2〕十二支の動物と日本列島の人々との関わり（歴史分野）

- 1 課題のテーマ（易）
- 2 秀吉や家康が牛車に乗った理由（20 字程度の記述・中）
- 3 東日本のある地域を拠点に繁栄した一族について（易）
- 4 平安～鎌倉時代のような（中）
- 5 「イヌの扱いは変わったのか？」に対する答え（易）
- 6 レポート中の各できごとを年表中にあてはまる（易）
- 7 レポートの内容について（中）

社会の授業で「ウシ・ウマ・イヌと人々が歴史上どう関わってきたか」を発表するという形式で、その各班のレポートをもとに歴史分野から総合的な出題がなされています。冒頭で示されたレポートから正確に情報を読み取る力が求められており、そこに受験生が今まで学習した歴史の知識を組み合わせて答えていく問題がほとんどです。2や5は、どちらもレポートを丹念に読み込んでいけば正解できます。また、6のような出題形式も、筑駒の歴史分野では頻出です。7は、全部で10ある文の中から正しいものをすべて選んで時代順に並べかえるという問題で、レポートの内容や手持ちの知識を総合して解く問題なので、ここをクリアできたかどうかの一つのカギになったと思われます。

### 〔3〕ある自転車事故をめぐる ～法的責任能力と条例制定の動き～（公民分野）

- 1 自転車事故に関する法律や条例（易）
- 2 民事裁判とは（易）
- 3 「権利」（人権）に関するさまざまな規定（易）
- 4 「法的な責任」とは（中）
- 5 条例について（時事問題・中）
- 6 地方公共団体について（時事問題・易）

リード文では、ある小学生が起こした自転車事故で、被害者が損害賠償を求めて起こした民事裁判の結果を通して、子どもの法的責任能力と親権者の賠償責任について考え、さらに親の監督義務責任を認めて1億円近い賠償金の支払いを命じた判決が社会に与えた影響、なかでも国や地方で生まれた自転車保険への加入を義務付ける流れなどを解説しています。この文章をふまえ、2や3のような知識理解を問う出題や、4のように本文自体の理解力をみる問題などが見られます。5では、香川県のゲーム規制条例や川崎市のヘイトスピーチ規制条例などの時事問題にもふれていますし、6では、ふるさと納税についての正しい理解や、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、都道府県による営業時間短縮や休業の要請に応じた事業者に対して交付された協力金なども出題されています。筑駒中では、こうした社会のさまざまな問題に目を向けて学習しているかを問う出題が目立ちます。最難関校合格のためには、日頃からこうした問題意識を醸成できるような環境づくりも大切だといえます。